



気候変動と環境経営(9)－3

日本の気候変動と世界の異常気象

ざっくり理解する気候変動 井川タ慈著より

1 月①－3のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2026 年 1 月 6 日(火)

四季を愛でる文化、それは 1000 年を超える歴史を持つ日本の文化の特色であり、世界の中で日本の誇り得る最高のものである。これは、主として自然の恵みであり、世界に優れて日本の文化、歴史、国情として誇れるものと言える。そしてまた、地球上における日本列島の位置がもたらすものでもある。

世界地図を眺めれば、よく解るように日本の地理的位置は、東に世界最大の大陸、ユーラシア大陸が横たわり、西に世界最大の太洋、太平洋に挟まれるような姿になっている。その結果、日本列島には西からユーラシア大陸で熱くなった大気が偏西風として吹き寄せ、東からは、周辺の海面水温の上昇した熱い海水(世界平均の 3 倍近い)が押し寄せ、これによる水蒸気の増加は、日本列島に世界平均の 3 倍近い海面水温の上昇率による豪雨の激甚化を招いている。

この地理的な宿命によって、日本の温暖化は世界平均をはるかに超え、それが気候災害をもたらし、ひいては、明確にはされていないが日本の国力減退の原因にもなっている。

この地理的特徴による気候的位置とそれに伴う気候災害に対して打ち克つ努力をすることは、国民的義務であり、単なる経済優先か、脱炭素化による気候変動への挑戦により真の経済的成果を目指すか、の問は、将に日本という国の将来的な課題ともいえる。

しかし、地球温暖化の悪影響は、世界の異常気象の激化(猛暑、豪雨、台風の大型化、干ばつ、海面上昇、生態系の破壊、水資源の不足など)すでに世界中で深刻な問題を引き起こしている。

日本の海洋の変化はその一部であり、森林火災の増加、食料、水資源の不足、強制移住と貧困、生物の多様性の喪失など地球的な人類全体の問題であり、これに直面して問題の解決を図らねばならない。